

東北振興電力の發電事業と

八田嘉明氏

吉野信次氏の後任として東北興業總裁並に東北振興電力社長となられた八田嘉明氏は過般同社株主總會に於て大要下の如き演説をされた。

最近に於ける我經濟界の状勢を觀まするに、産業各部門に於きまする生産力の躍進に伴ひ一般に事業が活況を呈して參りましたことは、國家の爲に誠に慶福に堪へない次第であります。併しながら、現下内外の情勢に鑑み經濟上よりは申すまでもなく、國防上よりいたしても、現状を以てしては未だ安如意得ないのであります。尙一層生産力の増大を圖るの要あるは、申すまでもないことであります。

凡そ生産力の増大には人的要素、物的要素の二つを要しますることは、言を須たざる所であります。但し、人的要素に付きましては暫らく之を措きまして物的要素中最も重要な動力特に近時化學工業の發達に伴ひまして其重要性を倍加して參りました電氣動力に付まして之を見まするに、我國現状よりいたしまして、之を水力資源に求むるの外なきは、是亦申すまでもないことであります。

併て東北地方の現状を觀まするに、此の地方は地理的に氣候的に他地方に比し恵まれて居ません爲に、今まで各方面より餘り顧られなかつた關係よりいたしまして、尙未開發の水利資源が相當に残されて居るのであります。尙して此の未開發資源を開發して豊富低廉なる電力を供給し東北地方に工業を誘致いたしまして、同地方の産業の興隆を圖りますことは、東北地方振興の大本であり、原動力であるのみならず、我國産業界の生産力の擴充に寄與すること大なるものあるを確信する次第でございます。此の水利資源の開發こそは當社設立目的の根幹を爲すものでございます。

翻つて東北地方に於きまする電力の需給状態を觀まするに最近に及びまして化學工業、織維工業等の新設増設並に礦山業の活況に伴つて、急激なる電力需要の增加を來たしまして、到る處電力の不足を訴ふるの状勢でありますことは、各位の御承知の通りであります。でありますから當會社と致しましては、其の需要に應するため最初の豫定以上に其の工程を早めることにいたしまして着々工事を進めてゐる次第でございます。發電工事の中目下建設中のものは、阿武隈川に於ける蓬萊發電所であります。

此の發電所は昨年十二月(二十六日)に土木工事實施認可を受け、又電氣工事に付きましては、本年二月(三日)に工事施行認可を受けまして、夫々一流の業者の手に依つて目下豫定通りに着々と工事を進めて居るのであります。此の發電所の發電力は38,700キロであります。工事費は約1,200萬圓を要するのであります。

蓬萊發電所に引續き、東北六縣に於きまして必要といたしまする電力需要に應じますために、如何様なる順序を以て水利資源を開發して行くかと言ふことは、東北産業開發の上にも當會社の經營上にも、極めて重大なる意義を持つてゐるのでござります。

當會社に於きましては、設立後政府原案の計畫たる十ヶ年15萬キロ開發の豫定に多小の變更を加へまして昭和十七年度迄に約160,000キロの發電を完成することに努力いたしてゐるのでございます。其の内容を年次別に申上げますると、昭和十三年度には目下工事中の阿武隈川の蓬萊發電所の外に岩手縣に一ヶ所、青森縣に一ヶ所、秋田縣に一ヶ所と合計四つの發電所を完成させまして、約55,000キロの電力を起す豫定でございます。次ぎに昭和十四年度に於きましては、福島縣に一ヶ所、秋田縣に三ヶ所合計四ヶ所の發電所で約46,000キロ昭和十五年度に於きましては福島縣に一ヶ所、青森縣に一ヶ所、合計二ヶ所の發電所で約8,700キロ昭和十六年度に岩手縣に一ヶ所、青森縣に一ヶ所、秋田縣に一ヶ所、山形縣に一ヶ所合計四ヶ所の發電所で約36,500キロ、昭和十七年度には山形縣に二ヶ所の發電所で約14,000キロ以上總てを合せまして十六ヶ所の發電所に於て約160,000キロの發電力を有することになるのでございます。

勿論本計畫を實行しつつある間に於きまして、更に第二の計畫を進め、有利なる地點の開發に依りまして、少くとも當會社の手に依り十五、六年の後には30餘萬キロの開發を目論んで居る次第でございます(云々)

